

いまこそ集落創生

第1回 荒屋地区



1_地区のシンボルであるやまぼうし。奥にはめぐたま新園舎が見える。 2_毎年8月17日に開催される荒屋まつりでは山車・囃子とともに地区を練り歩く 3_班対抗で競う地区球技大会。大きな盛り上がりを見せ、昨年は2班が優勝した

町中心部から北西に約2km、町の木である「やまぼうし」が出迎えてくれる荒屋地区。春から秋にかけては、きれいに整備された花壇も目を引きまします。しかし、度重なる水害によって土地が荒らされた「荒れ屋」が地区名の由来とも。今ではボランティアグループ「ゆりかご会」と「老人クラブ」の共同作業による花植えやゴミ拾いなど、各地区団体の地道な活動により、荒屋地区の美しい景観が保たれています。

大きな話題といえばやはり昨年当地区に開園した認定こども園めぐたまの新園舎。「農作業をしても子ども達の声が聞こえてくる。それだけで地区は元気になる」と区長の長倉博明さんは笑みを浮かべます。

地区と園との関わり方を模索中だという長倉区長は「新園舎の裏山整備に何か協力できないだろうか」ともくろみます。園も地区の皆さんの大きな力に期待を寄せているようです。

また、地区行事で特筆すべきは、今年で39年目を数える球技大会です。昨年は地区に住む老若男女のほか、町外へ嫁いだ方まで、なんと約100名の荒屋関係者が参加。開催年数もさることながら、年々参加者が増加していることには驚きです。「今後も若い人が参加しやすい雰囲気をつくって、地区の皆さんが楽しめるイベントにしたい」と長倉区長は話します。




一方、地区の総鎮守である千手観音様を毎月17日に参拝したり、毎月11日には女性たちがお日待ちで安産を祈願したりと、信仰の厚い一面もあります。たとえ見える景色が変わったとしても、故郷として誇りに思える伝統が荒屋地区にはありました。

編集 幸記

▼4月に入り、新年度がスタートしました。本号4～5ページに掲載のとおり、町では平成30年度当初予算に沿って事業を展開していきます。詳しくは今年も発行予定の「まちづくりノート」(金山町主要施策集)をご覧ください。

▼町を構成する31地区に改めてスポットを当て、魅力を紹介していくコーナーを作りました。各地区から地域全体を元気に！という願いを込め、地方創生になぞらったタイトルは「集落創生」。出身地区に限らず注目していただけるように心がけています。(C)中

金山町の人口は、5,655人 (2月末現在)

	男性	2,745人 (-6)	▼2月の異動
	女性	2,910人 (-5)	出生 1人
	世帯数	1,769世帯	死亡 9人
			転入 6人
			転出 9人